

生徒の非連続型テキスト・リテラシー を涵養する読解型の教材開発

—国際理解教育の手法を利用したヴィジュアル・テキストの提案—

荒井雅子(立教新座中学・高等学校)

1. はじめに

教育分野にデジタル化教材が導入されて久しいが、その教育効果については賛否多くの意見がある。現場に立つ者としての実感は、デジタル化されることで単純に理解力が深まるとは考えられない。それは映像・図版には文字の読解力とは異なる能力（非連続型テキスト・リテラシー¹）が必要だからである。国際理解教育分野では、フォト・ランゲージ（後述）の活動がよく利用されている。この活動に必要な能力が非連続型テキスト・リテラシーである。フォト・ランゲージの活動を授業に導入することで、非連続型テキスト・リテラシーが育つのではないかと考えた。

2. 非連続型テキスト・リテラシーについて

国際化時代にあって、生徒に求められる学力は国際標準を視野に入れたものになりつつある。新学習指導要領でも「言語活動の充実」を目指しながら²、充実させるべき言語活動の中身は、従来のように国語科で能力の育成が図られていた「読む、書く、話す」だけでなく、PISA型の読解力（リテラシー）³も視野に入れたものになっている⁴。PISA型の読解力には、書いてあることを理解する連続型テキストの読解力と、図表等の非文字情報を読み解く非連続型テキストの読解力に分けられる。公民科としてどのような形でPISA型の読解力を育成できるか、特に非連続型テキストの読解力を深めることが出来るのかは取り組むべき課題である。

本研究で対象とする読解力である非連続型テキスト・リテラシーとは、文字化されていないテキストから、必要な情報を読み取るだけでなく、それを利用して思考する能力のことで、そ

¹図版を理解する力は、PISAにおいては非連続型リテラシーと定義されている。国立教育政策研究所「0 ECD 生徒の学習到達度調査（PISA2009）」<http://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/index.html> (2014. 2. 11 最終アクセス)

²『高等学校学習指導要領』p15（第1章 第1款1「生徒の発達の段階を考慮して、生徒の言語活動を充実する」）

³自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力。

⁴文部科学省は新学習指導要領における言語活動充実を目指す背景として、PISA2003、PISA2006、PISA2009における生徒の読解力に触れている。PISA2009の結果は特に「情報へのアクセス・取り出し」を中心とした読解力の評価が高く、読解力の中でも情報相互の関係性を理解して解釈したり、自らの知識や経験と結びつけたりすること「統合・解釈」「熟考・評価」が苦手という傾向がある。

の読解の過程を順序立てると以下のようなになる⁵。

- | | |
|---|---------------------------------------|
| 1 | 情報の取り出し：テキストに書かれている情報を正確に取り出すこと。 |
| 2 | 解釈：書かれた情報がどのような意味を持つかを理解したり、推論したりすること |
| 3 | 熟考・評価：テキストに書かれていることを知識や考え方、経験と結びつけること |

同様に、鹿内らは、その過程を変換（非文字化情報を言語に置き換える段階）、要素関連づけ（テキストを構成している諸要素の関連づけの段階）、外挿（テキストの記述を超え、発展的に考える段階）の3つの活動があると分析しており（鹿内他 2010）、読解のレベルが深化していく過程としては、このプロセスを追ってゆくことが適切であると思われる。

3. 公民科各科目における言語活動

公民科は「現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせ…公民としての資質を養う」⁶ことを目的に、「情報を主体的に活用する学習活動を重視する」こと、「資料を収集、選択し、それらを読み取り解釈すること」が求められている⁷。これを受けて、各科目における言語活動については、科目「政治・経済」において「資料を適切に読み取り、解釈」するといった事例や⁸、科目「現代社会」において「社会的事象について…多様な角度から考察し説明する」経験を積むことが期待されている⁹。これらは非連続型テキスト・リテラシーの活動の一つといえる。科目「倫理」については「先哲の考え方・生き方などについて…自己の課題と繋げて考察し探求する」ことが求められ¹⁰、これは非連続型テキストの読解能力とは一線を画す。そのため、非連続型テキストの読解能力については、特に現代社会と政治経済について活用の可能性が高いと考え、倫理を分析の対象から外した。

4. フォト・ランゲージ

今回提案する授業案ではフォト・ランゲージの手法を利用する。これは、写真やイラストなど描かれたモノに隠されている情報を読み取ったり、その画像を読み解く過程で自分自身の意識を明らかにしたり、またその情報を参加者と共有することで、共通理解を作り出すという参加型の学習手法で、国際理解教育分野では特に実践事例を重ねている手法である。

情報の取り出し方も、①気づいたことを書き出す（キャプション）方法、②疑問点を書き出す（KJ）方法、③気づいたことからストーリーを作り出す方法、など様々である。これらのアウトプットの手法を前述の読解のプロセスに対応させると、①は「情報の取り出し」、②は「情報の取り出し」や「解釈」、③は「熟考・評価」に相当すると考えられる。またその手法とし

⁵ 『読解力向上に関する指導資料：PISA調査(読解力)の結果分析と改善の方向』文部科学省、東洋館出版社、2006

⁶ 『高等学校学習指導要領』p47（第2章 第3節公民科 第1款目標）

⁷ 同書、p52（各科目にわたる内容の取扱い1（1））

⁸ 「言語活動の充実に関する指導事例集 高等学校版」（http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/genngo/1322283.htm）第3章言語活動を充実させる指導と事例（2）教科等の特性を踏まえた指導の充実及び留意事項

⁹ 同上

¹⁰ 同上

ては、（１）１枚の写真を読み解く方法、（２）複数の写真を比較する方法、（３）複数の写真を使って、ストーリーを作る方法、（４）写真の一部を加工して考えを深める方法等がある¹¹。このうち、（３）と（４）は素材の加工方法に依拠した提示方法なので、利用の方向性は自ずと決まり、（１）と（２）は①～③までの読解を深める素材として、利用可能性がある。今回は（１）と（２）の手法を利用する。また『地球のごはん』について、掲載されているすべての図版について分析を施した結果、５の教案用の教材としては以下に提示するものが利用可能であろうと思われた。

５．教案の提案

読解の深化を体験する授業として、戦争／難民／国際機関、また多国籍企業をキーワードにした授業案を提案する。使用する教科書によって単元が異なるため、今回はそれぞれの導入時に対応できる１時間扱いの授業案を作成した。更に進んで授業案の検証・分析を行い、今回開発するヴィジュアル・テキストが非連続型テキスト・リテラシーをどの程度深められるものかは、次年度の実践の課題とする。

５－１．「戦争／難民／国際機関」を題材にした授業案

目 標 難民とその発生因となる内戦への理解を通して、国際紛争の原因の多様性を考える。
支援物資を通して、支援の実際とそれを行う国際機関について学ぶ。

教 材 『地球のごはん』 「No. 21 難民の少年」

- 評 価 **1** 写真から必要な情報を文字に起こすことができる。
2 書かれた情報がどのような意味を持つかを理解したり、推論したりすることができる。
3 書かれた情報を知識や考え方、経験と結びつけ適切に表現することができる。

過程	時間	○学習活動 ●学習内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
導入	5分	○単元の導入 ●本単元のテーマについて確認する	□テーマについては、概要に留める。 グループワークのための班を作る。
展開 ① 読解	15分	○班単位での読解活動を開始する。 ●写真の情報や疑問点を文字にする。写真の周囲に貼るなどして、班員で情報を共有する。	□全ての生徒が情報の取り出しを行う。 結果は付箋等を利用して写真の周囲に貼って、班員で情報を共有する。
② 共有	15分	○書き出した情報を発表する。 ●写真を読み解いて、分かったこと（文字化された情報）と分からなかったこと（疑問点）をクラス内で共有する。	■写真から必要な情報を文字に起こすことができる。 □結果を黒板に貼りだし、情報を分類する。
③ 熟考	10分	○不足した情報に気がつき、他の生徒との共有を図る。 ●補足資料を使って、疑問点の解消を図る。	■書かれた情報がどのような意味を持つかを理解したり、推論したりする。 □教員の側からの補足資料提示。難民戦争、支援について授業とのつながりを図る
まとめ	5分	○本時の活動を踏まえて、写真の解説文を書く。	■知識や考え方、経験と結びつけ適切に表現する。

¹¹ 外務省「開発教育・国際理解教育ハンドブック」 (http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/edu/kyouzai/handbook/html/h20102_1.html) (2014. 2. 11 最終アクセス)

5-2. 「多国籍企業」を題材にした授業案

目 標 消費物資を比較し日本でも入手可能な食材を探すことで、多国籍企業の活動の一例を確認し、国際経済への導入にする。

教 材 『地球のごはん』 「No. 31 学生寮で暮らす大学生」 「No. 67 野生動物保護官」
「No. 69 イヌイットの彫刻家」 「No. 79 長距離トラック運転手」

評 価 **1**写真から必要な情報を文字に起こすことができる。
2書かれた情報がどのような意味を持つかを理解したり、推論したりすることができる。
3書かれた情報を知識や考え方、経験と結びつけ適切に表現することができる。

過程	時間	○学習活動 ●学習内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
導入	5分	○単元の導入 ●本単元のテーマについて確認する	□テーマについては、概要に留める。グループワークのための班を作る。
展開 ① 読解	15分	○班単位での読解活動を開始する。 ●自分の身の回りの品も含めて比較し、2枚以上の写真に共通する商品とその企業名を探す。	□全ての生徒が情報の取り出しを行う。結果は付箋等を利用して写真の周囲に貼って、班員で情報を共有する。 ■写真から必要な情報を文字に起こすことができる。
② 共有	15分	○書き出した情報を発表する。 ●食材の地域性が失われつつあり、多国籍に活動する企業が食の均一化を促していることに気がつく。	□商品名・企業名の確認 ■書かれた情報がどのような意味を持つかを理解したり、推論したりする。
③ 熟考	10分	○不足した情報に気がつき、他の生徒との共有を図る。 ●補足資料を使って、疑問点の解消を図る。	□多国籍企業について、教員の側からの補足資料提示。国際経済について、授業とのつながりを図る。
まとめ	5分	○本時の活動を踏まえて、写真の解説文を書く。	■知識や考え方、経験と結びつけ適切に表現する。

参考文献一覧

- ・鹿内信善、尾関俊浩、安達聖(2010)「ヴィジュアル・リテラシーの授業開発(IV)」『北海道教育大学紀要』vol. 60
- ・ピーター・メンツェル, フェイス・ダルージオ『地球のごはん』
- ・文部科学省「言語活動の充実に関する指導事例集 高等学校版」(webのみ)
(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1322283.htm)
- ・文部科学省『高等学校学習指導要領』
- ・文部科学省『読解力向上に関する指導資料: PISA 調査(読解力)の結果分析と改善の方向』, 東洋館出版社, 2006
- ・拙稿「非連続型テキストの読解力を養うヴィジュアル・テキスト開発」『社会系教科教育学会 第25回研究発表大会 発表要旨集録』2014